

第6回

百万遍談議

「議論の十字路、百万遍」

かつて百万遍周辺の喫茶店では、「読書会」と称して、違う分野の学生が集まってひとつのテーマで議論をする姿がしばしば見られました。コーヒー1杯で数時間いても店の人は気にもせず、ひたすらコップにお水をついでくれたものです。
あるいは「下宿」に集まってなされた議論は、同じ下宿の他学部の人だけでなく、他大学の学生も加わって、それこそ朝まで延々と続けられたというのが茶飯事でした。

最近はコロナの影響もあり、学生同士の議論というものが影をひそめているように思います。加えてそもそも喫茶店自体がどんどん少なくなっていっています。
そこで、往時に盛んであったそんな議論の場を、「百万遍談議」として復活させようという思いから、このような企画が作られました。参加資格は、京都大学の学部学生であれば、学部や学年は問いません。

授業ではありませんので、なにかこうしなければいけないという義務はなく、単に興味があるから参加して、人の話をきき、自分の考えを述べる。それだけです。
毎回のテーマに関して、あらかじめ知識が必要となるわけではありません。唯一お願いするのは、毎回提示される「書物」あるいは「短文」を読んできること、それだけです。

「人はこんなことを考えているんだ」ということを知るだけでも楽しいですし、さらには、自分の考えを人にきいてもらうことの楽しさも、大学生に与えられたある種の特権です。
気軽な気持ちで参加してください。

いろいろな人と人、人と言葉あるいは考えの出会いが生まれることを楽しみにしています。

今回読んできていただくのは、「科学者の故郷」をテーマにした文章です。
下記、申し込みフォームに記載のリンクからダウンロードして読んでください。

話題提供者 沼田 英治（人と社会の未来研究院 特定教授）
テーマ 「メンデルは何人（なにじん）？」

主催：京都大学 学術研究展開センター（KURA）
場所：附属図書館3階共同研究室5
対象：京都大学学部学生（正規生）先着8名
使用言語：日本語
費用：無料
申し込み方法：下記フォームよりお申し込みください

[お問い合わせ]
学術研究展開センター
「百万遍談議」担当
jinsha@kura.kyoto-u.ac.jp



京都大学



2023.5.20 [SAT.]

10:30—12:00

2023年5月20日
百万遍談議 開催報告

第6回 メンデルは何人（なにじん）？

話題提供者

沼田 英治 人と社会の未来研究院 特定教授

参加者：2名

[内訳]

2回生 1名（農学）

4回生以上 1名（理学）

談議メモ

今回の使用テキスト「メンデルは何人（なにじん）？」について、「何人（なにじん）であるか」を規定する要素には、国籍や言語、遺伝、生まれ育った土地などさまざまなものがあるけれども、そもそもそうした問い自体の前提には、ヨーロッパの主権国家に起因するナショナリズムの負の影響があるのではないか、との意見から議論が始まりました。続けて出てきたのは、国家の存在の利点をめぐる論点で、複数の集団に国家としてある程度のまとまりを持たせることで、現代につながる経済システムを確立することができたのでは、との意見でした。

また、議論が進むうちに「言語＝人のアイデンティティを規定するもの」との見方が強固になってきたため、その点に疑問を投げかけたところ、宗教も要素としては大きいだろうとの発言が。いっぽうで、ある土地で支配－被支配の政治的関係が発生した場合には、文化や言語は同化政策の対象になりやすいため、その点にも留意する必要があるそうだ、との指摘がなされました。

終盤には日本の単一民族主義についても話題が及び、英語教育のあり方をめぐって議論が盛り上がった場面も。「人間のアイデンティティを規定するものは何か」といった大きなテーマをめぐって試行錯誤した回となりました。